

名古屋城石垣 ぬいぐるみに

名古屋城の石垣石をかたどったユニークなぬいぐるみが、三月二十日から開かれる名古屋城春まつりで販売される。名古屋芸術大ヴィジュアルデザインコース四年の森島ひかりさん(21)＝春日井市＝がデザインした作品を基に、北区の障害者就労支援施設「モーヤッコ」の利用者たちが一点一点手作りの。森島さんは「金のしゃちほこや天守閣だけではない、名古屋城の多面的な魅力を知ってもらおうきっかけになれば」と願う。

(小島哲男)



石垣のぬいぐるみの商品化を、「モーヤッコ」の利用者たちと喜び合う森島さん(左)＝北区志賀南通2で

来月春まつりで販売 名芸大生森島さんデザイン 障害者ら手作り

森島さんは昨年春、同コースの三年生たちによる名古屋城をテーマにしたデザイン作品展「ナゴヤ展」に、二十三人の参加者の一人として出展。刻印のある石垣石などに着目し、五点のぬいぐるみを「奴らは名古屋城の中にいる」と題して出品した。この作品が名古屋城の関係者の目に留まり、商品化の話が進んだ。

商品となったのは、このうち四点。城内の石垣の中で最大の石材「清正石」をかたどった「清正石くん」と、特徴的な刻印のある石がモチーフの「だんごくん」「ひょうたんくん」、もう一つは、もとも石垣に使われていたが庭石に転用された石を模した「芝石くん」だ。

清正石くんは幅二十八センチ、高さ十三センチとやや大きめで、ほか三点は手のひらサイズ。それぞれの石の表情を捉え、素材を工夫した。ひょうたんくんは光沢のあるクラッシュペロア、芝石くんはフェルトといった具合に異なる生地を使った。



「清正石くん」



「ひょうたんくん」



「だんごくん」



「芝石くん」

製作依頼を受けたモーヤッコの利用者たちは、森島さんとの打ち合わせや刺しゅうの練習などを繰り返して、昨秋以降、まつりでの販売用に各二十個を完成させた。中西祐美子さん(40)は「刺しゅうは最初、難しかったけど、だんだんと楽しくなった」と製作を振り返る。名古屋城総合事務所は、五月五日までのまつりを以降も公式土産として販売を続けたい考えだ。販売価格は調整中という。

名古屋芸術大の学生たちによる名古屋城でのナゴヤ展は二〇一八年度に始まり、これまで三回開催。城の本質的な価値をデザイン作品にして提案してきた。商品化につながったのは今回が初めてで、森島さんは「名古屋城の魅力探しの一助になればうれしい」と喜ぶ。学生たちを指導する遠藤一成准教授も「提案で終わらず、実際の形となって社会につながったことの意義は大きい」と話している。